

© The Tiffen Company, 2000

ROBARK COLOR CONTROL PATCHES

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

普  
年  
心  
子  
卷

特別

13

2778

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
JAPAN  
TAJIMA

門へ遠13  
番 1809  
巻

門へ13  
2778  
巻

へ13  
2778



凡滑レ稽レ向レ穴探レをレらレへレ其レ美レしレ世レ  
叙  
 多レくレといえとも。其神レと讀レよ。穴レと探  
 する穴を志レくレに。滑レ稽レとレも。比レ自  
レ滑レ稽レなるなり。其まを土の團レ子レたレふ  
 何レが青梅レの曲レとあレんレや。今レの大レ通  
 ます。けレその凡レまをレらレ其通レと得レる

志<sup>し</sup>め<sup>め</sup>む<sup>む</sup>じ<sup>じ</sup>と。淡川ノ、傳<sup>でん</sup>と<sup>と</sup>述<sup>の</sup>る<sup>る</sup>。  
傾<sup>けい</sup>城<sup>せい</sup>傳<sup>でん</sup>受<sup>じゆ</sup>の虎<sup>こ</sup>姑<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>く。  
ふ<sup>ふ</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>或<sup>ある</sup>と<sup>と</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>。或<sup>ある</sup>は<sup>は</sup>泣<sup>な</sup>き<sup>き</sup>何<sup>なに</sup>  
ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>面<sup>おも</sup>白<sup>しろ</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>。不<sup>ふ</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>  
神<sup>かみ</sup>ろ<sup>ろ</sup>手<sup>て</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>舞<sup>ま</sup>足<sup>あし</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>ほ<sup>ほ</sup>を<sup>を</sup>  
ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>。此<sup>こゝ</sup>書<sup>か</sup>の<sup>の</sup>奥<sup>おく</sup>儀<sup>ぎ</sup>も<sup>も</sup>眼<sup>まなこ</sup>を<sup>を</sup>

後<sup>のち</sup>々<sup>々</sup>。よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>契<sup>けい</sup>情<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こゝろ</sup>を<sup>を</sup>大<sup>だい</sup>集<sup>しゆ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>え<sup>え</sup>

安永七年

つねの孟妻

田一一金魚撰

しほまき 綱目

○才一

鄭裸の才上  
游川、才賣

○才二

當世の風俗  
大通の才

○才三

紋日の風流  
色あはれ忍杖

初舎れ陰梅

床入の魂騰

慈の卦向

息子のめ

○才四

新妓の志美

似性ゆわふ

ふらふ床

才法のいくたて

○才五

瀬川が夕暮

けいせいの子

悪くぬ軍次

瀬川、七魂

附いふやがと化していきよたす

十八大海の傳授をき

當世とくち巻



むきーのと。湧てながえすき川。まが唐時や待乳山。む

に涼。二月の雪。四季のながれも日ち本。まらさけけー風色

あれ。日本。悦とよぬあり。昔けいのう。はす屋て。よー唐

の。さ。ゆす。け。系とけーと名。そのころ。此。郭。今

此。大門。海。う。ま。と。寛永の。と。け。西。移。よ。ま。の。花

秋の。燃。え。は。ね。お。と。お。と。く。と。む。と。ら。は。よ

かまふ風俗も。拍うつり。斬らばれ。あもん坂まで。あもんもたうと  
さざむ。このいさ茶屋も。名の子。つて。路中も。今。い。ぬ。い。せ  
米やが。う。あ。と。い。ま。ん。く。あ。り。と。肩。よ。ぬ。い。あ。ま。ん。く。  
す。う。や。色。じ。る。に。や。け。男。解。を。ら。し。せ。う。ま。い。は。ま。が。い。ハ。丈  
う。ま。ば。い。さ。た。ら。ー。い。い。ま。び。上。別。さ。う。い。の。た。が。い。の。皆。は。  
山の本田。う。て。當。世。の。意。気。よ。の。い。い。ん。や。郡。内。は。  
み。の。羽。織。大。だ。き。如。し。神。は。お。お。依。株。ま。い。し。と。な。む。  
お。よ。う。世。の。中。に。あ。ん。と。す。ま。い。と。る。く。ま。し。よ。金。あ。る。や。が

にて。いま。なる。い。ま。あ。り。色。男。が。ぬ。が。し。が。男。の。志。は。さ。か。あ。い  
男。は。な。ぜ。ま。か。ぬ。金。い。ま。と。男。が。う。い。か。ね。な。は。ら。ん。こ。う  
ま。ん。れ。も。男。も。い。は。べ。も。中。は。い。ま。い。ま。と。み。せ。を。穴。と  
あ。り。て。穴。と。い。は。い。た。で。う。て。ま。つ。が。い。よ。ま。い。や。ら。し。て。お。と。ふ  
ー。く。た。ま。け。の。り。い。ま。い。あ。り。て。よ。く。ま。あ。ら。う。か。し。め。う。  
よ。ろ。こ。を。せ。能。あ。り。が。せ。い。あ。る。皆。を。ま。い。の。り。一。十。言。せ。む。  
矢。ち。う。人。お。ね。や。り。に。て。威。あ。り。て。掃。う。に。十。林。四。姓。系。象。を  
な。と。は。る。ん。人。今。う。よ。く。別。れ。候。行。な。ま。ば。真。の。大。庭。も。い。い。

こべー。けいせいと論ろんさるるもたつてくまう。儿女にらとた  
とやうにして形かたち形かたちめてたく。たふすうらう人ひとさう貴たか多おほれ  
のう人の評いひよ。おまかきハ林はやしハ振ふるふハ物ものハ丹に丹に  
明あちハ醜みにくく。美うつくしきハ馬うま鹿かあり。顔かほハ人ひとと思おもてく  
と。ニッじやー。扱せらあさうが中なかをもちあう。まごめいも  
よまるといーハ室むろあさづー。またまよあの中なかハ客きやくを  
けいせい中なかハ依い據じましたり

あ、よ松田まつだやの浅川あさがはをせしと尋たずねるふ千石ちいしと勉りやくたる人の

娘むすめとして。初はつの名なハおやをいひらう。まご十六じゅうろくの名なさう。花はなの  
のいとお溢こぼれるをいひや  
とさう。一いちつまハ。二千にせんふとあるとーセリ。ちまるとは  
生なまりきハ。けとーハありらう。まごいすくあさ。まご  
めいとして。まごまれなる容いしやく色しきハ。侍しやく氏しの君きみ。あうじの  
再またまるといハ。ほご。とてま女むすめハ。せむるか。ハわんか  
男おとこハ。あまへして。まご。まご命いのちハ。おー争まがの思おもひ  
ふも抱かかり。おもくぬ女むすめハ。ふらうらう。梅うめと柳やなぎ  
北きた南みなみ。向むかいあふらう抱かかり。おの亭てい。とていハ。又またハ。まご  
めい。れとあう。娘むすめの。あいらるる。まご。い。あふらう。  
い。まご。か。まご。まごの。命いのちも。まご。飲のむ志し。た

病の床。へのみと。目玉のこま。良業さうとまう  
たり。名医もあくじおし。悪よもぶしの腰もとま  
帷幕いびくもめぐしとこがすとあうのみとくたるまよひう  
一く件の中くととさのこ。ぬるこせーむとまも。まよが  
ふらまやもりの糸。ひけむすて悪の中。おやま  
圍かやへまの物。まよふやが。杖のま。百まも  
まようくし。目くよはまなると。まよふく。いふげ  
の。叔父おぢの糸ととま。いと。親と。親よぶの  
約束やくそく。んか。が。あ。ふ。ば。や。ま。も。て。い。な。ぶ。け  
のま。と。ま。ろ。ん。ん。杖。ま。の。あ。り。ら。よ。悪。ひ。い。で  
な。し。一。杖さしと。い。ふ。か。一。い。ゆ。こ。な。う。い。ぬ。ら。ま。れ

露と涙かきと神祕かみはまどる。娘むすめもふ物や。海うみ岸かたでら  
のむ川がはさう。め。つ。う。ふ。る。浪なみ人ひとありと。そえ来きた。くも  
尋たづ一つよ。その人ひともあがの杖つゑむ。ま。の。ま。つ。と。ま。う  
に。清きい。疎あよのこ。う。一。地ち一。んのこ。ま。八はお。う。を。し。よ。ぢ。ち。お。は  
親おやよ。ハ。お。う。る。大おほ悪あくと。う。け。は。ま。んのま。る。う。ま。よ。よ。い。ま。が。か  
アい一つと。け。や。う。ま。と。ゆゆま。く。も。鬼おにの。め。う。も。ろ。う。な。み。で。い  
ま。眼まなこと。ま。す。う。か。が。う。 [ま] そ。ア。や。ア。お。こ。ま。う。ま  
さ。う。や。せ。と。ど。ふ。さ。る。と。も。出であ。か。ア。あ。つ。ち。よ。お。ア。う。ア  
ま。 [ま] くれハ。糸いとい。ま。う。一。貯たくも。か。い。る。う。た。し。バ。何なにも。つ。け  
て。も。 [ま] ハ。テ。くれ。も。ど。ふ。さ。う。ふ。う。た。う。や。せ。と。お。い。ん。ど





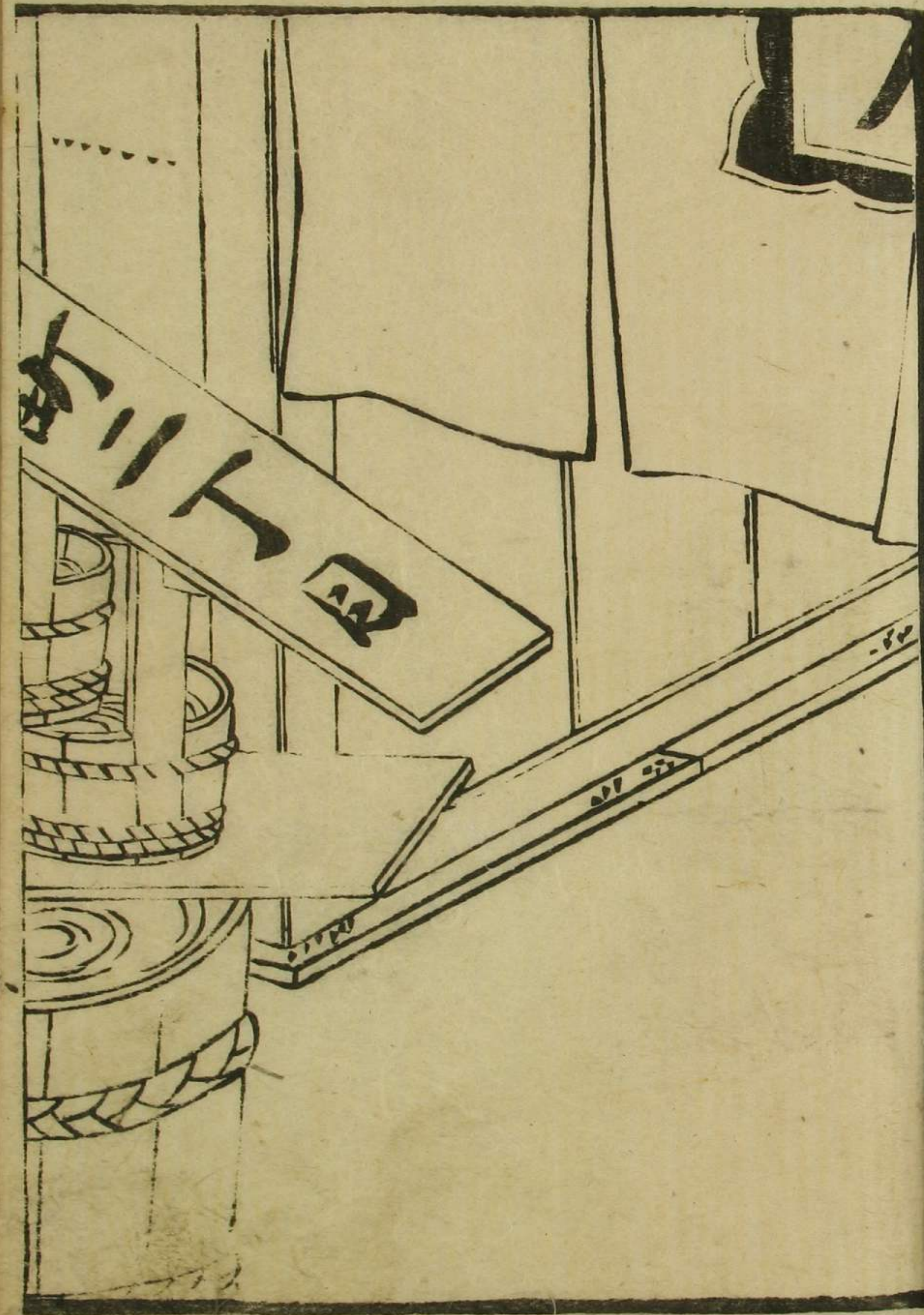


忍しのい

ちんあつしどあぐト魚やこの弄女ニくがせていせや  
由よしニ一々。女房ハ湯ゆうゆゆし。ドきよよのよとしくおつけ  
りしぐとどせーが。ゆりく聖せい日にちあいうわ川の。こが西にしよま  
けて裸はだか下くだりりたまま。志し也やんんののドドー。叔おハはせせーととなな。  
だき火ひ津つででぬぬ西にし。おおままくくハハああまま。ここよよててああいいぬぬままああい  
くてハハままハハおおままくくととくくととせせるる。いいははももいいんんふふー。おおままくくたた  
ままーゆゆりりるる。ああままれれびびーまみみるる。浮うききととかかー目め費ばいと  
うう。一い月げつああままくくららせせーが。いいついつままててかかててけけままししににいいんん  
術じゆつままああへへとと思おもひひーが。ゆゆりりゆゆののここららくく。ままああひひままのの。  
ままきまきま。身み夜よのの備ひまましし。んんそそののまま一い帖てつよよ。大だい人にん参さん  
ニにトト。毎まい日にちのの人にん参さん代だいよよ。くくーんささーはいいままよよおおままりり。カカののを  
ははままきまここちちががーら。巻まくくくくととままららおおしし。ままままししハハつつけけーハ

あつしどあぐト魚やこの弄女ニくがせていせや  
ゆりく聖日あいうわ川の。こが西よま  
けて裸下りたま。志也んのドー。叔ハせーと  
だき火津でぬ西。おまくハあま。こよてあいぬまあ  
くてハまハおまくとくくとせる。いはもいんふー。おま  
まーゆりる。あまれびーまみる。浮きとかー目費と  
う。一月あまくらせーが。いつまでかてけましにいん  
術まあへと思ひーが。ゆりゆのこらく。まあひまの。  
まきま。身夜の備まし。んそこのま一帖よ。大人参  
ニト。毎日の人参代よ。くーんさーはいまよおまり。  
はまきこちがーら。巻くくとまらおし。まましハつけーハ  
あつしどあぐト魚やこの弄女ニくがせていせや  
ゆりく聖日あいうわ川の。こが西よま  
けて裸下りたま。志也んのドー。叔ハせーと  
だき火津でぬ西。おまくハあま。こよてあいぬまあ  
くてハまハおまくとくくとせる。いはもいんふー。おま  
まーゆりる。あまれびーまみる。浮きとかー目費と  
う。一月あまくらせーが。いつまでかてけましにいん  
術まあへと思ひーが。ゆりゆのこらく。まあひまの。  
まきま。身夜の備まし。んそこのま一帖よ。大人参  
ニト。毎日の人参代よ。くーんさーはいまよおまり。  
はまきこちがーら。巻くくとまらおし。まましハつけーハ

おままりり。





ぬんがーのむざ。ぬんがカフとらぐりて。よろらさ

らーのうと。めのドローてらんたんー 桂二いん

が。らうが山び 桂六そんあ。せしとまあてらんぬん

おやーも。ぬんまりのつまりと。二年のせーとーと

ごすあけと。おやとー引く。ゆーあーと。うーと

あけこくう。おやと。せ川と名とらうと。ふーと

えきと。中このういそかんで。そのおをもつと

に。容候といいつく。親とをむけてするーと

の。月々上。ひらのまーとーのむと。あつめてふ

むとあせいと。かと 深窓とをむらーかも。まへつと

せらう。ぬんもろくよ。ぬんさす。そのとらうと

しせらんまの令下。ゆんむ。ゆしあるすもあ

が。ぬんがーたぬぬ。まよふと 郭へ引く

ゆんま。ゆんま。ゆんま。おま。ゆんま。ゆんま

へたの。おま。せ川。ゆんま。ゆんま。ゆんま

か。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま

が。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま

お。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま

あ。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま。ゆんま















いびもふあしおもきうぬ トあつうらちあつらんよどくの けりほ。むねちをらんーかな  
 西へ。さあむびひと。ちやをてらん。みまきーハ  
 中へ。ゆるーが。セ川うかのとさうーに。それぞうも  
 やごごこをれよう。あえなうひーが。あ。お。お。乃  
 床のーがやふ。

セ川 もーカまゆーらん(またる)てさー 15の女ハ

おもーりくもおを。ちやー お。お。お。お。お。 思たくらん  
 なおもふ。さびくまてくれあんと。さうおらん  
 て。りい。 **カまゆ** ぞふふもたあ。ぬー  
 貞心ハテキぞいふ。もての。思。よふらん

志く。お。お。お。川牛の。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 めく。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 ぬーのらとらん。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 おまき **セ川** ンレらふらん。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 夫の おつと おまき。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 祓はくつ。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 と。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
 袂の たか 内。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。













○ 中 田

泳川が白中のだま  
なまれの影ぞうにおむる

ひまもく人のおまじりたら

いつそくらあだよ。<sup>天四</sup> かりがまきうだにおもひかんで。なれで

かきならんま<sup>の風</sup> ぶんちら。ちまやたすうでも。志家んこそあ

あんこ<sup>とふ</sup> ちらま。おんぐんごもまもくんのひりめゆ

に拂えおつけはく。のほそくらうでつらま<sup>也三</sup> ぶんたがよく

おんあまきじいらてふはなまじもらじていもま

したんとまらまうかまやまへんはまきづん一やアありいせぬ<sup>の風</sup>

ちーおんこ<sup>の風</sup> のびてさく。れははくたまき

ましくやうめがうなくまがうでいやうくま

やまにいてかうておんじりま<sup>也三</sup> の風かんとま

そのくはめが<sup>の風</sup> おいぢやななく。めがまじりな

るれよかまひなんま<sup>の風</sup> のま<sup>の風</sup> かの<sup>の風</sup> かん

とよよ<sup>の風</sup> ちらま。おんこ<sup>の風</sup> のま<sup>の風</sup> ちや<sup>の風</sup> ちよ

何でが<sup>の風</sup> いがくが<sup>の風</sup> ちら<sup>の風</sup> ありい<sup>の風</sup> ま<sup>の風</sup> ちん<sup>の風</sup> のく<sup>の風</sup> ちん<sup>の風</sup>





のこはたはらぐ。む。かま。よ。も。ぶ。う。し。ち。あ。ー。の。と。こ。ー。い。お。い  
ま。ん。ぞ。し。た。ー。も。ぶ。の。と。か。た。し。

らんがくたしうが。お。こ。に。か。り。ち。り。が。ま。ろ。ー。た。ま。

んぞおもしろき。お。い。で。た。ま。も。も。た。お。く。ま。ち。か。い。り

か。い。め。の。さ。の。ち。お。こ。る。か。く。も。も。ら。ら。の。か。ら。か。の。あ。あ。あ。

た。ま。も。も。せ。ぬ。ち。か。ら。に。か。り。の。か。ら。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

ぬ。か。の。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。



かしも。この世にあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今を執るに金のすまひ。かもしもあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 のび。今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。

かもしも。この世にあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今を執るに金のすまひ。かもしもあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 のび。今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。  
 今の世を。首のとなりにあらばあるべき。かもしもあらばあるべき。



澁とちうけよ。世のニうのんまうのびるあはる **世** 人  
うがれ大うく

ガニキ一物もたしあすも。うしあかへ **世** 人

に。たぐいものる。まます **世** 人  
大うく **世** 人

く **世** 人

み **世** 人

さ **世** 人

か **世** 人

た **世** 人

と **世** 人

は **世** 人

く **世** 人

は **世** 人

今 **世** 人

で **世** 人

山 **世** 人

さん **世** 人













ものゝほもまたへおほも今から又もたすくはあふあふ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ

このまのまへへいこ トテキハ一サキヨシキニシテセリガクシ





















五三 ちまたで女が。いづくおろしきをふくむ。いづくもれ  
ほす。いせもれ トおろしき。いせもれ。いせもれ。  
ふて。幽魂あよびきて。いせもれ。いせもれ。いせもれ。  
いせもれ。いせもれ。いせもれ。

今うこのおしはけし。いせもれ。いせもれ。いせもれ。  
非 いせもれ。いせもれ。いせもれ。  
あか。旭日 あか。旭日。あか。旭日。  
名 名。名。名。名。  
名香 名香。名香。名香。名香。  
頭 頭。頭。頭。頭。  
ま ま。ま。ま。ま。

○やびよふと侍接し

○新 新。新。新。新。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。  
い い。い。い。い。

彩ぞうりあふよふからままで。よぶくはまいたしうりあふ  
 ぎちぶらと用とらふまはるまじがるままじらうりあふ  
 〇名角うると引つるべー。〇麻花をたぐか  
 ありよまうやうべー。〇念ふとりど。たうらうらに  
 中がよー。〇初め之四段の内。同とぬうも遊あつめ續つづ  
 てゆくやうよんがー。〇切曲きまがのめがん。叔父おぢがかりだ  
 いなぐ何まうけても利きさうり。まじげさうせの情せに  
 ころすドもあらへー。〇は中みだかまじのさ

さうあうり。〇〇化け務む。自じ然ぜんのまじひ。大のあめん  
 〇〇〇からさう。けーまじやの回まわり。〇〇〇が  
 大のこんまつ。〇すくて。まじこまう。〇〇かじ。ま  
 内志うちんま情じある。情じと念ねんじらー。〇おごした  
 けして。まじあるまじか。〇〇色いろまをな  
 なる。まま秋あきすが。たぐのよまま中ちゆうああのまま。いいぬぬ  
 あり。〇かじもよ。〇〇のりり中ちゆうりり。〇〇  
 〇〇〇あいま教きょうありしてまじらうり。〇〇〇あいま

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines, with some characters resembling letters and others resembling symbols or punctuation. The overall appearance is that of a historical record or a personal journal entry.

